

J R山陰本線（園部～綾部）沿線地域
公共交通活性化協議会（第30回）

次 第

日時 令和8年1月20日(火)15:30～
場所 京丹波町役場 議会棟2階 大会議室

1 開 会

2 議 題

第1号 令和7事業年度地域公共交通確保維持事業の事業評価について〈協議事項〉

第2号 地域公共交通計画の令和6年度事業評価について〈報告事項〉

3 そ の 他

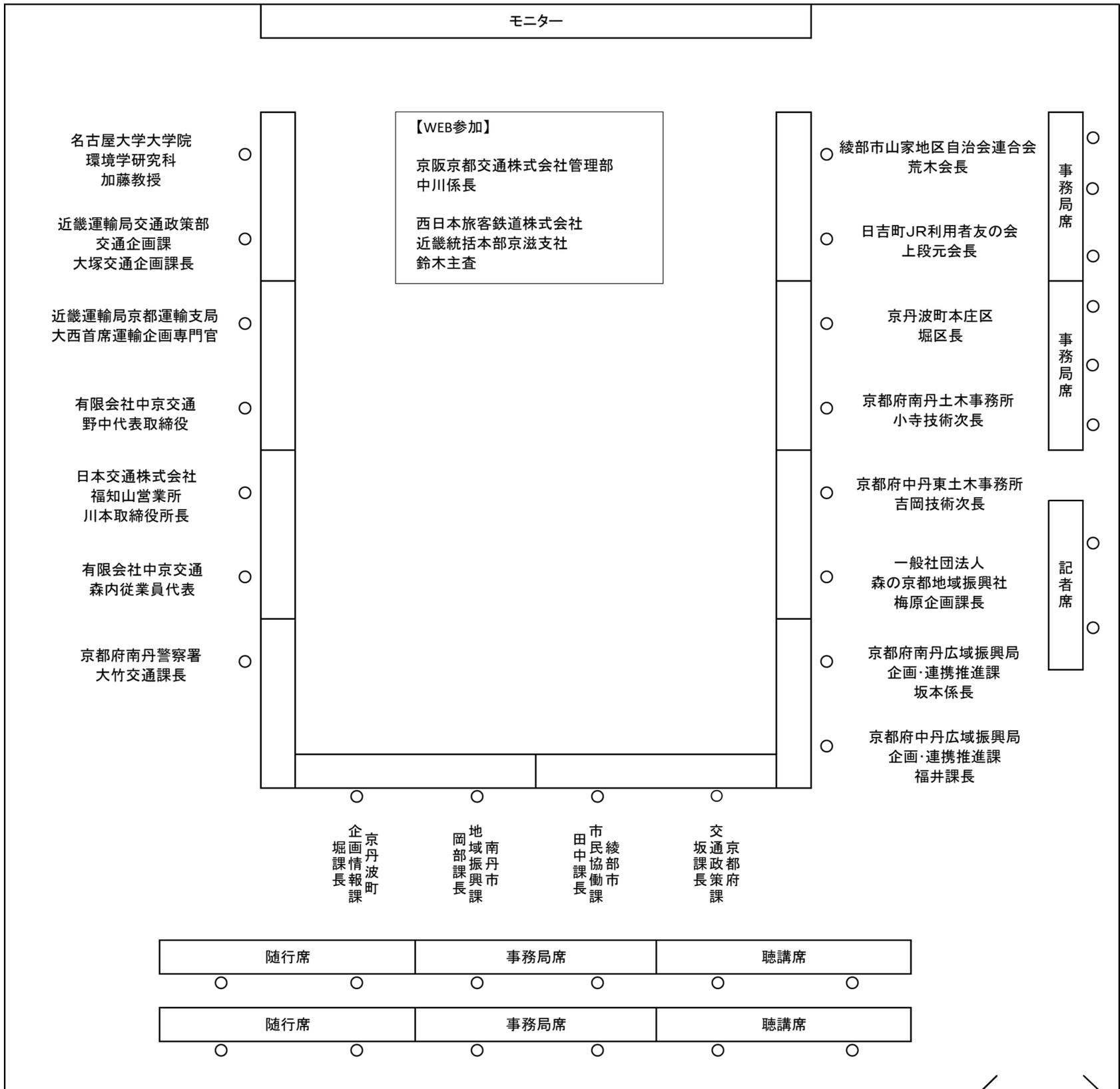
4 閉 会

J R山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会 (第30回) 出席者名簿

分野	所属	職名	氏名	備考	出欠	代理出席者名
学識者 経 験 者	名古屋大学大学院環境学研究科	教 授	かとう ひろかず 加藤 博和	会長	出席	
利用者代表	綾部市山家地区自治会連合会	会 長	あらかみ としふみ 荒木 敏文		出席	
	日吉町J R利用者友の会	元 会 長	じょうだん げんいちろう 上段 源一郎		出席	
	京丹波町本庄区	区 長	ほり いくとろう 堀 郁太郎		出席	
交通事業者等	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部京滋支社	副 支 社 長	すぎやま こうすけ 杉山 幸介		WEB 代理出席	鈴木主査
	京阪京都交通株式会社	管 理 部 次 長	つじ えいいち 辻 栄一		WEB 代理出席	中川係長
	有限会社中京交通	代 表 取 締 役	の なか こう 野 中 好		出席	
	日本交通株式会社 福知山営業所	取 締 役 所 長 (綾部営業所長兼任)	かわもと やすひろ 川本 康博		出席	
	京都タクシー株式会社	取 締 役	なかやぶ ゆうすけ 中藪 裕介		欠席	
労働者代表	有限会社中京交通の労働基準法第36 条に基づく労使協定を締結する労働者 代 表	従 業 員 代 表	もりうち かづみ 森内 佳津美		出席	
道路管理者	国土交通省福知山河川国道事務所	道 路 管 理 課 長	おにし ひろゆき 大西 裕之		欠席	
	京都府南丹土木事務所	技 術 次 長	こてら むつお 小寺 睦男		出席	
	京都府中丹東土木事務所	技 術 次 長	よしおか ひろあき 吉岡 浩昭		出席	
公安委員会	京都府南丹警察署	交 通 課 長	おおたけ あきより 大竹 明賢		出席	
	京都府綾部警察署	交 通 課 長	ないとう ともり 内藤 知則		欠席	
運輸行政	近畿運輸局交通政策部	交 通 企 画 課 長	おおつか やすひろ 大塚 保洋		出席	
	近畿運輸局京都運輸支局	首 席 運 輸 企 画 専 門 官	おにし けんじろう 大西 健二郎		出席	
観光地域づくり 団 体	一般社団法人森の京都地域振興社	総 括 部 長	たかはし としゆき 高橋 俊行		代理出席	梅原企画課長
計 画 者 成 画 者	京都府建設交通部	交 通 政 策 課 長	さか てるあき 坂 晃昭		出席	
	京都府南丹広域振興局	地 域 連 携 ・ 振 興 部 長 企 画 ・ 連 携 推 進 課	こいし なおき 小石 直生		代理出席	坂本係長
	京都府中丹広域振興局	地 域 連 携 ・ 振 興 部 長 企 画 ・ 連 携 推 進 課	ふくい あゆみ 福井 あゆみ		出席	
	綾 部 市	市 民 環 境 部 長 市 民 協 働 課	たなか えみ 田中 恵美		出席	
	南 丹 市	地 域 振 興 部 長 地 域 振 興 課	おかべ さとし 岡部 哲使		出席	
	京 丹 波 町	総 企 画 情 報 課 部 長	ほり ゆうすけ 堀 友輔		出席	

JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会(第30回) 配席図

日時:令和8年1月20日(火) 15:30~
場所:京丹波町役場 議会棟 2階 大会議室



令和7事業年度地域公共交通確保維持事業 の事業評価について

0. 園福線概要

- 園福線（園部～福知山間）は、西日本ジェイアールバス(株)の撤退を受け、令和6年3月に地域公共交通活性化再生法に基づく「地域旅客運送サービス継続実施計画」の認定を取得。国の特例支援のもと、(有)中京交通と京都交通(株)が運行を継続している。

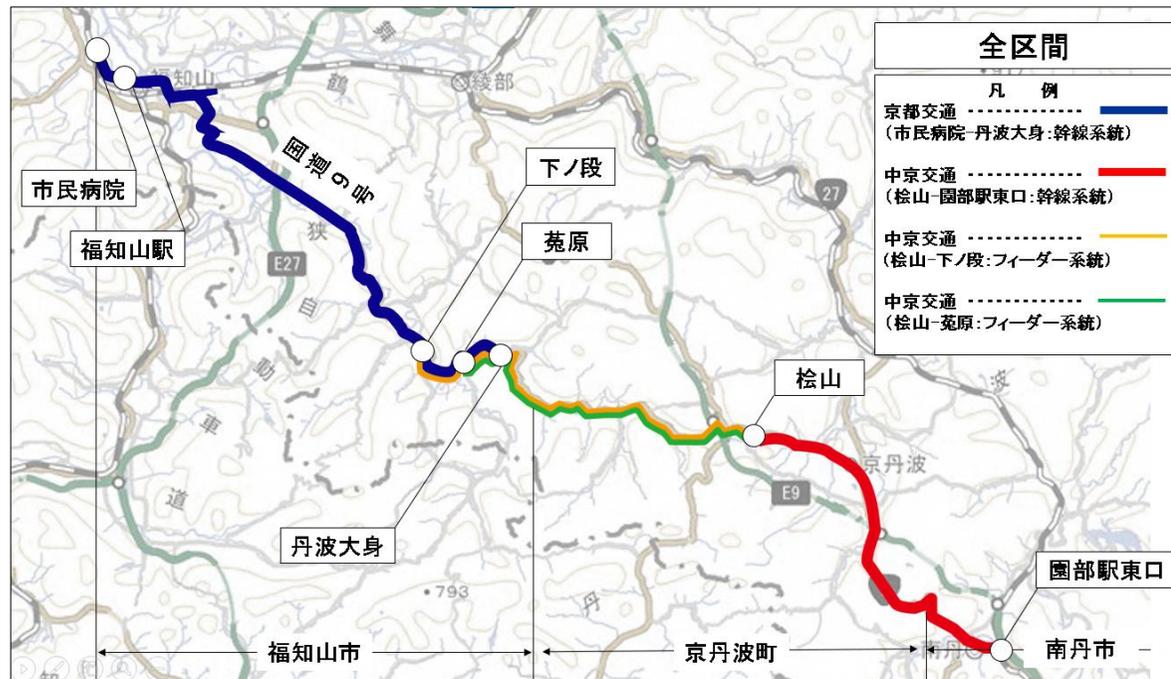
事業概要

- 西日本ジェイアールバスと同様の運行水準を確保
- 京都交通と中京交通がそれぞれの区間を分担して運行を行い、地域間を切れ目なく移動できるよう、可能な限りダイヤ接続を調整し、円滑な移動を確保
- 地域のニーズに対応してダイヤ設定を行うとともに、福知山駅から福知山市民病院までの路線延伸や商業施設へのバスの乗り入れなど利便性を向上
- 運賃について、現行の10円単位から50円単位のわかりやすい運賃体系に変更するとともに、全区間で運賃を引き下げ、沿線の高校へ通学する生徒など、バス利用者の負担軽減を図る。

・園部駅東口～福知山駅間(※)	1,850円 (▲320円)
・園部駅東口～桧山間	600円 (▲210円)
・桧山～菟原間	500円 (▲180円)
・菟原～福知山駅間	750円 (▲190円)
・福知山駅～市民病院間	250円 (新 設)

(※)桧山・菟原で乗り換えした場合の運賃
 (参考) 京都交通 令和7年6月運賃改正

福知山市		福知山市（一部）、南丹市、京丹波町	
運行事業者	京都交通(株)	運行事業者	(有)中京交通
運行区間	市民病院～丹波大身	運行区間	園部駅東口～下ノ段



1. 事業評価について①

事業評価について

- 地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業（地域間幹線系統補助）は、毎年度、協議会自らによる事業の実施状況の確認、評価を行い、当該評価の結果を、補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに、協議会から、地方運輸局に報告することとなっている。
- 評価対象は、地域間幹線系統確保維持費国庫補助金（**有**）中京交通が運行する地域間幹線系統（園部駅東口～桧山間））
- 評価は一次評価（自己評価）と二次評価（第三者評価）の二段階

事業評価の流れ

①一次評価（自己評価）

実施者：JR山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会

内 容：有）中京交通が運行する「園部駅東口～桧山間」における利用促進事業の実施状況・目標達成度を確認

協議事項

②二次評価（第三者評価）

実施者：近畿運輸局＋第三者評価委員会

内 容：近畿運輸局が二次評価案を作成。委員会で審議・助言

委員会：各府県交通担当部長、有識者

（参考：根拠要綱・要領・様式等）

- 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（第3条第5項）
- 地域公共交通確保維持改善事業実施要領（第8の（1）①）
- 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目
 - ・別添1（地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業））
 - ・別添1－2（事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について）
 - ・近畿様式

1. 事業評価について②

- 園福線（園部～福知山間）は、系統ごとで運行事業者・評価協議会が分かれている状況
- 本協議会は、**(有)中京交通が運行する園福線[60][65]（園部駅東口～桧山間）**を評価
- 京丹波町地域公共交通会議は、(有)中京交通が運行する園福線[70][80]を評価
- 福知山市地域公共交通会議は、京都交通(株)が運行する三和線を評価
- 対象期間は令和6年10月1日～令和7年9月30日（令和7事業年度分）

系統	運行事業者	系統名	起点～終点	協議会
地域間 幹線系統	(有)中京交通	園福線[60]	園部駅東口～桧山	JR山陰本線（園部～綾部）沿線 地域公共交通活性化協議会
		園福線[65]	園部駅東口～桧山（自然運動公園経由）	
地域内 フィーダー系統		園福線[70]	桧山～丹波大身～菟原	京丹波町地域公共交通会議
		園福線[80]	桧山～丹波大身～菟原～下ノ段	
地域間 幹線系統	京都交通(株)	三和線	福知山市民病院～丹波大身	福知山市地域公共交通会議

評価対象

- 運行路線 園福線[60] 園部駅東口～桧山（17.0km）、園福線[65] 園部駅東口～自然運動公園経由～桧山（18.2km）
- 運行日 毎日
- 運行回数 園福線[60] 9回、園福線[65] 1回
- 運行時間帯 6時台～20時台
- 運賃 50円単位のわかりやすい運賃体系
- 支払方法 現金、ICカード、定期券等

1. 事業評価について③

- 事業実施の適切性及び目標・効果達成状況については、国の評価基準（A,B,C）をもとに評価を実施
- **園福線[60][65]**の目標・達成状況については、以下設定（地域公共交通計画に位置付けられた定量的な目標・効果）

項目	評価する内容	目標
バス路線収支率	実績値	44.60%（R8）
利用者数	実績値	82,276人（R8）
利用者あたりの公的資金投入額	実績値	347.3円（R8）

国の評価基準

④事業実施の適切性：

地域公共交通計画に基づく事業が適切に実施されたかを、A,B,Cの3段階で評価する。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を明らかにする。

- ・A：事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された
- ・B：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった
- ・C：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

⑤目標・効果達成状況：

地域公共交通計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成された（達成できる見込み）かを、設定した目標ごとにA,B,Cの3段階で評価する。目標・効果が達成できなかった（達成できない見込み）場合には、理由等を分析の上明らかにする。

- ・A：事業が計画に位置付けられた目標を達成した（する見込み）
- ・B：事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった（一部達成できない見込み）
- ・C：事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった（達成できない見込み）

・評価は、判定結果のみをもって一喜一憂すべき性質のものではなく、その結果を次年度以降の事業にどのように反映させ、改善に取り組むべきかという検討を行うことこそが重要である。

2. 運行開始に向けた取組

① 利便性向上の取組

● 運賃の値下げ

運賃について、現行の10円単位から50円単位のわかりやすい運賃体系に変更するとともに、全区間で運賃を引き下げ、沿線住民の利用拡大や高校へ通学する生徒などへの負担軽減を図った。

(例)
園部駅東口～福知山駅間 1,800円 (▲370円)、園部駅東口～桧山間 600円 (▲210円)
桧山～菟原間500円 (▲180円)

● 昼間帯の往復2便増便(全日)

西日本ジェイアールバス(株)が運行していなかった時間帯(10時～12時)に便数を上下2本増便し、利便性向上と新たな需要の掘り起こしを図った。

● 商業施設への乗り入れ

ミニフレッシュ三和店前へのバスの乗り入れを行うことで、地元住民の利便性向上を図った。

● バスロケーションシステムの導入

園福線の全区間において、バスの現在走行位置や停留所にバスが到着するまでの時間をスマートフォンなどを通じて確認することができるようにすることで、利用者の利便性向上を図った。

● 車両更新

園福線運行にあたり新車5台を購入し、利用者に快適な車内空間を提供した。



② サービス維持の取組

● 京都交通、JR山陰本線との接続

JR山陰本線とは、引き続き、ダイヤの接続を確保した。京都交通とは、菟原で乗り継ぎができるよう、可能な限りダイヤ接続を調整し、円滑な乗り継ぎを確保した。

● ICカード利用

西日本ジェイアールバス(株)が運行していた時と同様に利用者のスムーズな乗降が可能になるよう、ICカード機器を導入した。

3. 利用状況①（令和6年度及び令和7年度 4月～9月実績）

	系統	利用者数 (トータル)	利用者数 (1日あたり)	利用者数 (1便あたり)
令和6年度 (R6.4.1～ R6.9.30)	幹線系統 園部駅東口～桧山	33,026	180.5	9.0
	フィーダー系統 桧山～下ノ段	4,359	23.8	2.3

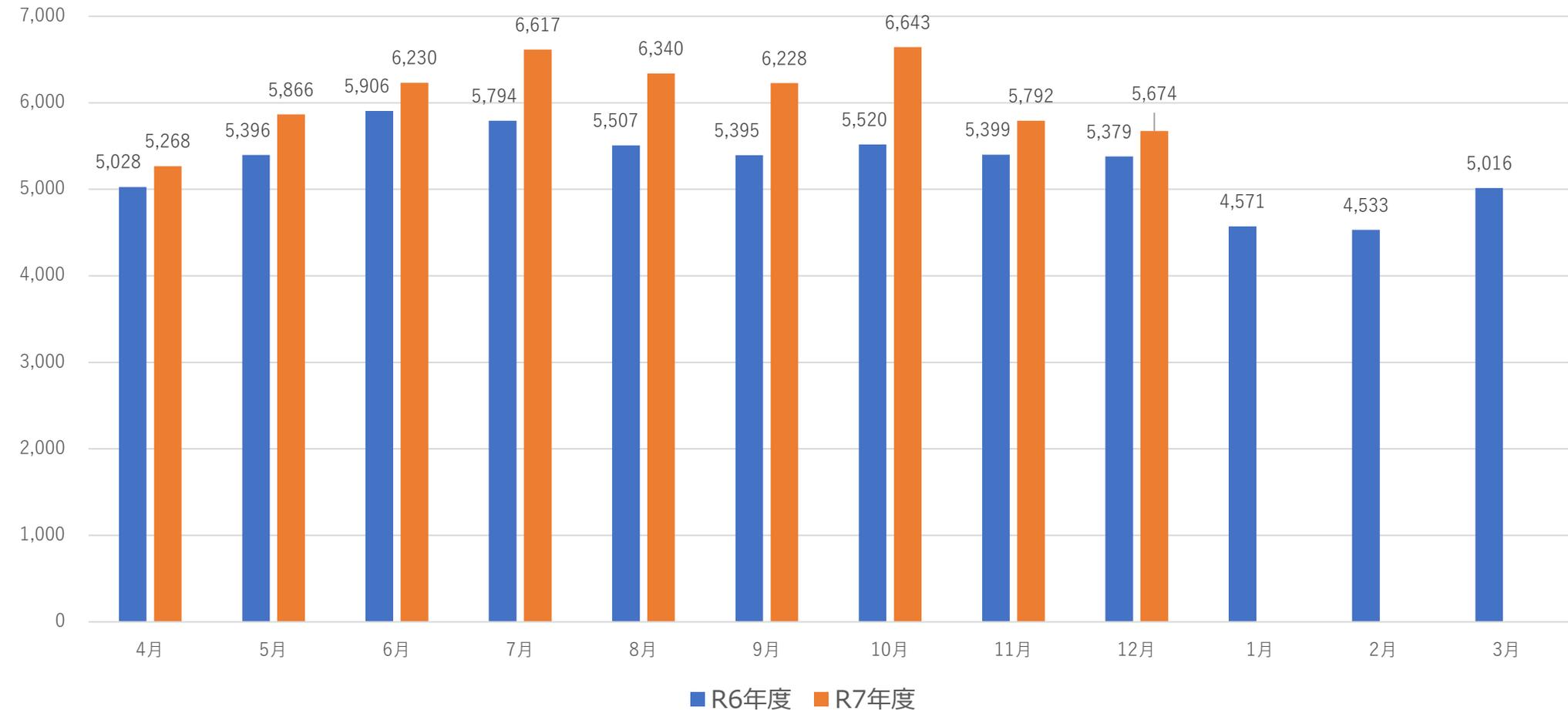
	系統	利用者数 (トータル)	利用者数 (1日あたり)	利用者数 (1便あたり)
令和7年度 (R7.4.1～ R7.9.30)	幹線系統 園部駅東口～桧山	36,549	199.7	10.0
	フィーダー系統 桧山～下ノ段	4,215	23.0	2.3

- 年間を通じた利用者数比較はまだできないところであるが、半期（4月～9月）ベースで比較すると、幹線系統においては、令和6年度より令和7年度の方が利用が伸びている。
令和6年度（33,026人）→令和7年度（36,549人）10.6%増
- フィーダー系統においては、利用者数は前年並みで、安定した利用が続いている。

3. 利用状況② 地域間幹線系統（園部駅東口～桧山）R6.4～R7.12

地域間幹線系統 園部駅東口～桧山間

(単位：人)

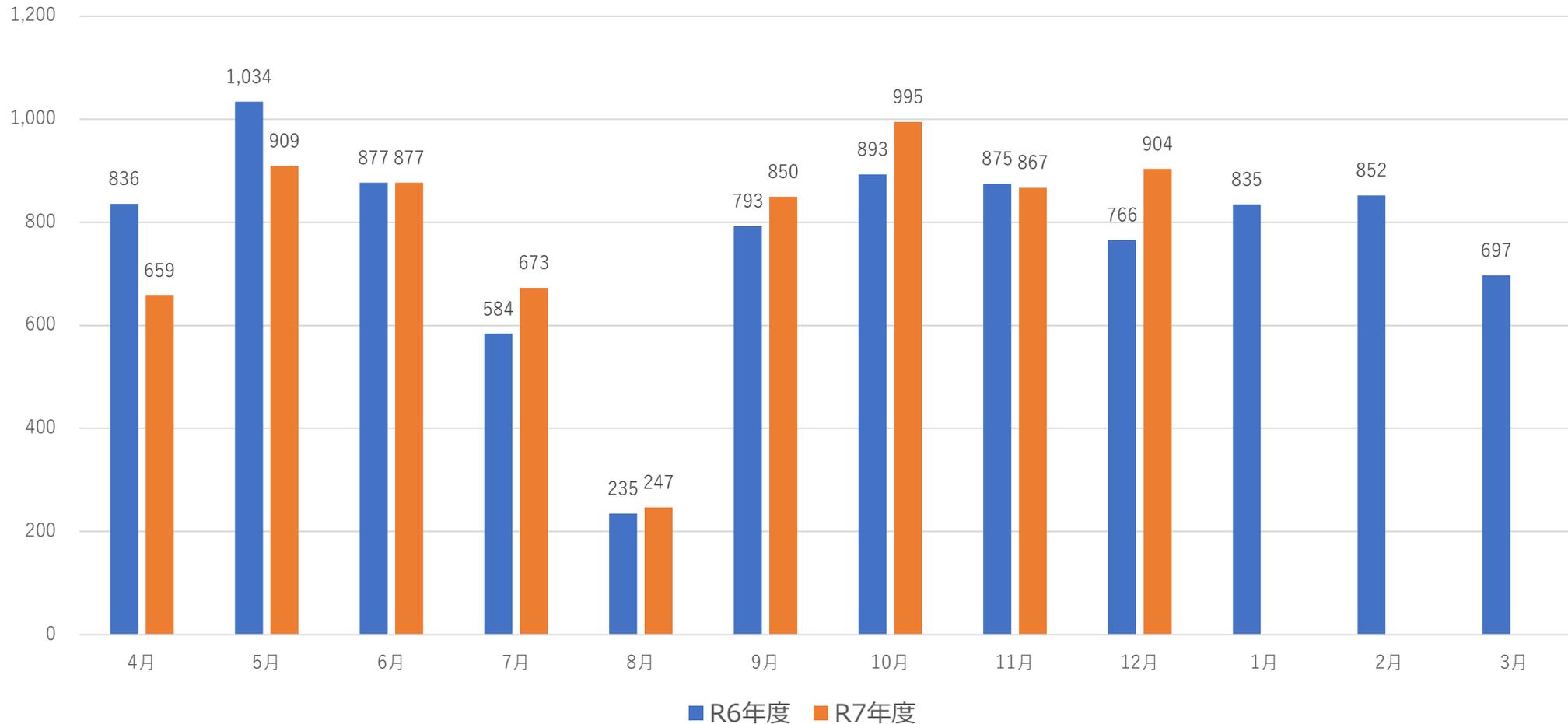


- 令和7年（2025年）4月に運行開始から2年目を迎えた。令和7年は前年より利用者数が増加しており、特に夏季（7月～9月）の伸びが顕著である。例えば、9月は前年同月比で15.4%増となった。
- 令和7年度の年間利用者数は、現在集計中であるが、4月から9月までの半年間で比較すると、令和6年度の33,026人に対し、令和7年度は36,549人となり、約10%の増加である

3. 利用状況③ 地域内フィーダー系統（桧山～下ノ段）R6.4～R7.12

地域内フィーダー系統 桧山～下ノ段

(単位：人)



- 桧山～下ノ段間についても、令和7年（2025年）4月に運行開始から2年目を迎えた。4月・5月は前年より下回ったが、6月は同水準、7月以降は増加傾向が見られた。特に7月は約15%増、9月は約7%増となった。
- 令和7年度の年間利用者数は現在集計中であるが、4月から9月までの半年間で比較すると、令和6年度の4,359人に対し、令和7年度は4,215人であり、利用者数は前年並みで、安定した利用が続いている。

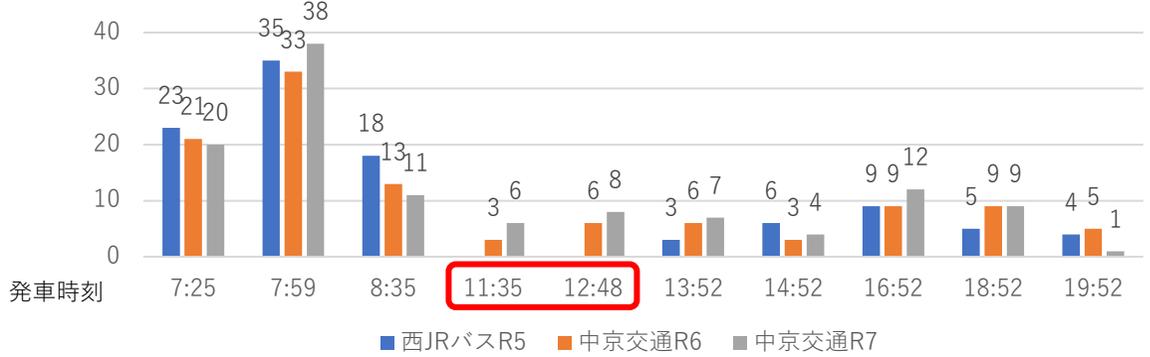
3. 利用状況④（便別の利用者数比較）

幹線系統 園部駅－桧山

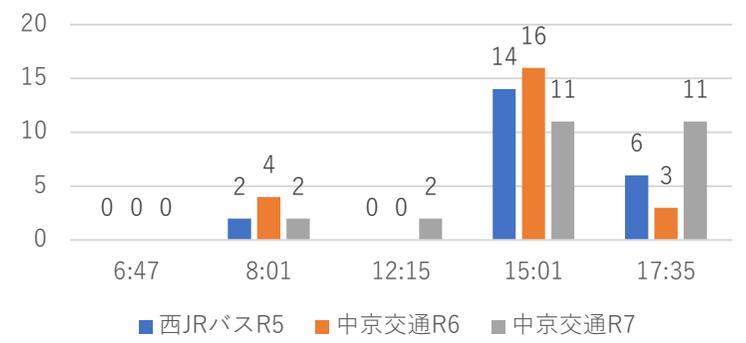
フィーダー系統 桧山－下ノ段

■ 西日本JRバス
■ 中京交通（R6）
■ 中京交通（R7）
□ 増便ダイヤ
 （単位：人）

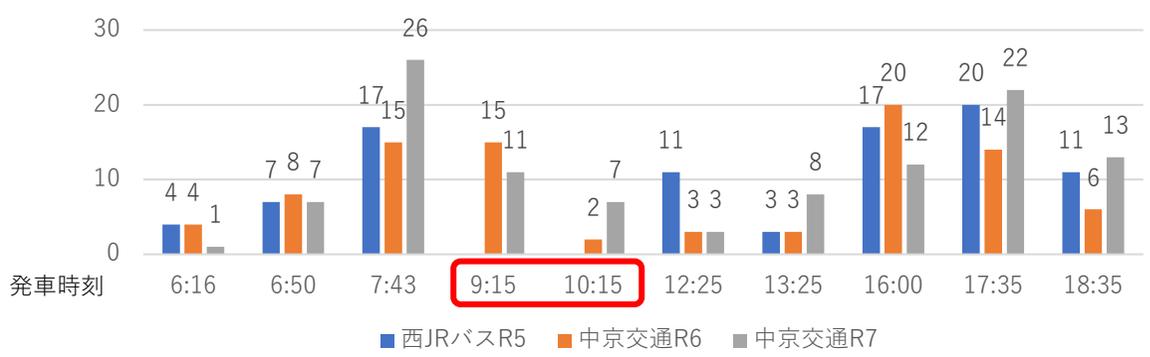
園部駅東口→桧山



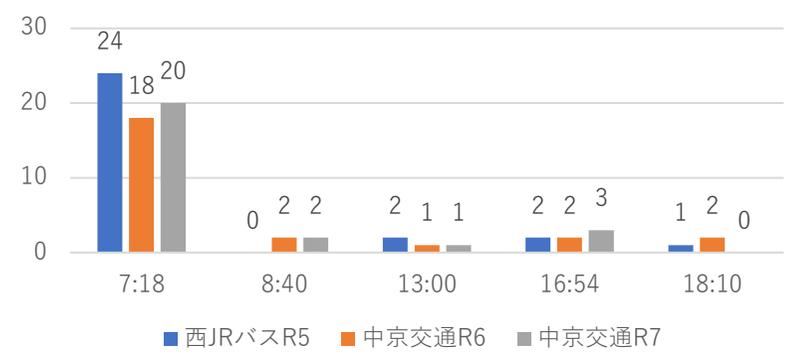
桧山→下ノ段



桧山→園部駅東口



下ノ段→桧山



※西日本JRバスの乗降調査結果（R5.6.20(火)）と中京交通（R6.6.18(火)）及び（R7.6.17（火））の同曜日、同天候（くもり）の1日乗降データを比較

- 各便とも、概ね同等の利用状況。引き続き、通勤・通学に利用されている。
- 増便ダイヤにも利用があることから、旅客需要があり、利便性向上が図られている。

3. 利用状況等(須知高校通学生)

令和 7年度	全校 生徒	通学方法						参考：山陰線	
		徒歩	自転車	バス	内数		送迎	園部駅	下山駅
					園福線	町営バス			
1年生	49	0	21	18	11	7	10	5	2
2年生	29	0	11	3	1	2	15	0	0
3年生	53	1	20	8	6	2	24	3	-
合計	131	1	52	29	18	11	49	8	2

→令和6年度と比較して、令和7年度の新入生が増加し、バス利用者も増加した。

(参考：過年度調査)

令和 6年度	全校 生徒	通学方法						参考：山陰線	
		徒歩	自転車	バス	内数		送迎	園部駅	下山駅
					園福線	町営バス			
1年生	31	1	20	3	1	2	7	2	-
2年生	56	1	24	9	7	2	22	4	2
3年生	32	1	6	7	3	4	18	2	1
合計	119	3	50	19	11	8	47	8	3

令和 5年度	全校 生徒	通学方法						参考：山陰線	
		徒歩	自転車	バス	内数		送迎	園部駅	下山駅
					園福線	町営バス			
1年生	56	1	24	9	7	2	22	4	2
2年生	32	1	6	7	3	4	18	2	1
3年生	49	2	19	17	11	6	11	4	1
合計	137	4	49	33	21	12	51	10	4

3. 利用状況等(フィーダー系統の通学利用)

■瑞穂小学校・瑞穂中学校（最寄りバス停：桧山）

	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	生徒数	利用者	生徒数	利用者	生徒数	利用者
小学生	130人	18人	114人	18人	106人	15人
中学生	51人	7人	51人	4人	59人	8人
合計	181人	25人	165人	22人	165人	23人

■福知山高校三和分校（最寄りバス停：下ノ段）

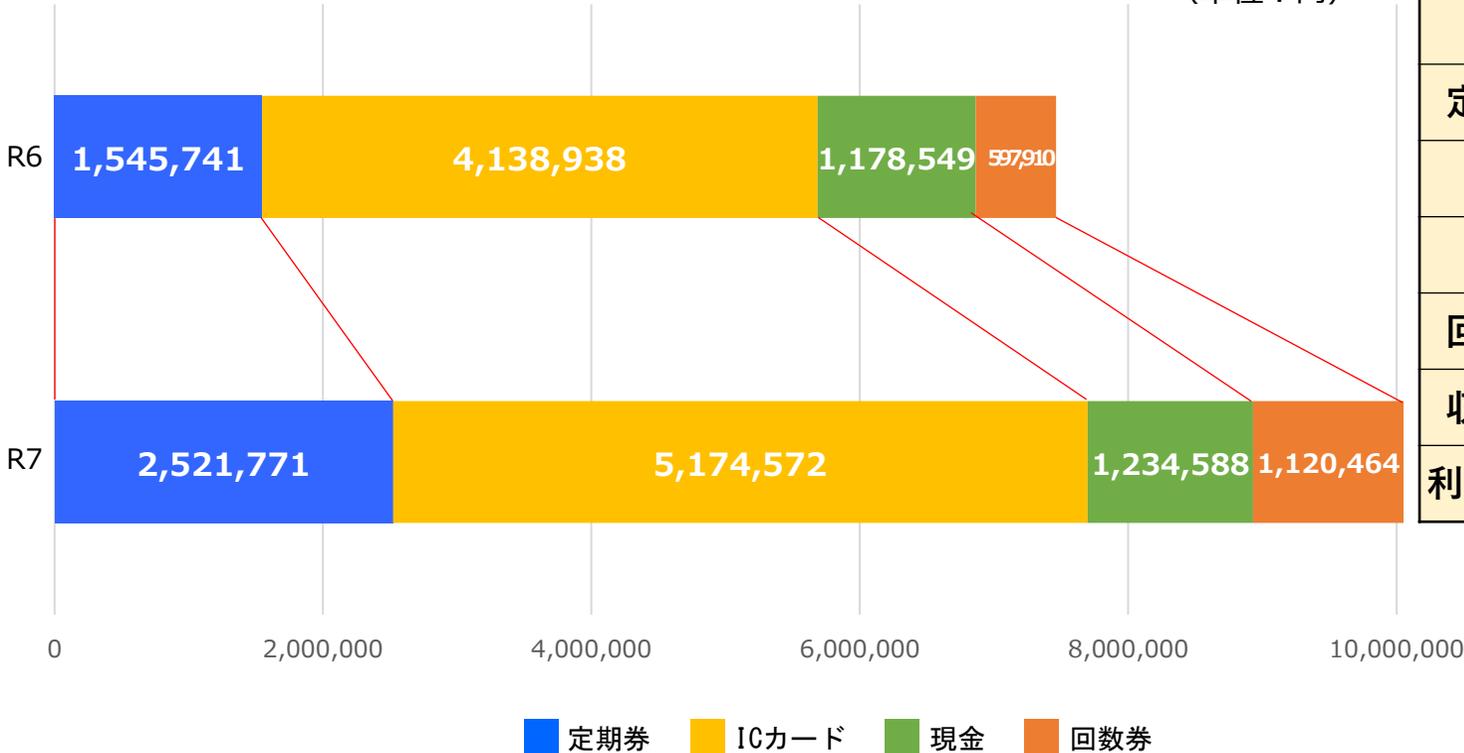
	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	生徒数	利用者	生徒数	利用者	生徒数	利用者
1年生	14人	2人	17人	—	17人	—
2年生	9人	—	12人	2人	14人	—
3年生	12人	1人	9人	—	12人	2人
4年生	6人	—	10人	1人	9人	—
合計	41人	3人	48人	3人	52人	2人

- フィーダー系統（桧山－下ノ段）について、地域の小・中・高生の通学手段として、引き続き利用されており、地域の教育の機会確保に貢献している。

3. 利用状況等(サービス維持の取組:ICカード利用)

園福線（園部駅東口～桧山） 券種別利用割合

(単位：円)



	R6 4.1～9.30	R7 4.1～9.30
定期券	1,545,741円	2,521,771円
IC	4,138,938円	5,174,572円
現金	1,178,549円	1,234,588円
回数券	597,910円	1,120,464円
収入計	7,461,138円	10,051,395円
利用者数	33,026人	36,549人

- 令和6年半期と比較して、収入・利用者数がともに増加
- 各券種において、売上が増加

令和6年4月から須知高校の生徒向けに通学回数券を販売（500円区間を400円×10枚で販売）

通学回数券は、通学定期券よりも割安で柔軟性が高いため、引き続き多くの生徒が回数券を選択して通学していると推察される。

(参考：通学定期及び回数券比較 園部駅東口～須知高校間)

・通学定期券（1か月）18,000円

・通学回数券（10枚） 4,000円 → 1か月20日登校換算で16,000円（400円/枚×20日×2回）

4. 運行系統別輸送実績及び平均乗車密度

幹線系統：園部駅東口～桧山

事業年度	キロ程 (km)	運行 回数	運送 収入 (円)	走行 キロ (km)	経常 収益 (円)	経常 費用 (円)	平均 賃率 (円)	平均 乗車 密度	輸送量
令和7事業年度 (R6.10.1～ R7.9.30)	35.2	10.0	18,367,271	124,976	18,539,737	58,874,944.0	45.12	3.2	<u>32.0</u>

(参考) 事業年度	キロ程 (km)	運行 回数	運送 収入 (円)	走行 キロ (km)	経常 収益 (円)	経常 費用 (円)	平均 賃率 (円)	平均 乗車 密度	輸送量
令和6事業年度 (R6.4.1～ R6.9.30)	35.2	10.0	7,461,138	62,659.2	7,980,582	33,793,359.7	45.12	2.6	26.0

(参考：西日本ジェイアールバス時代の輸送量) 令和6事業年度：33.6、令和5事業年度：32.7

令和7事業年度運行について、「地域間幹線系統確保維持費国庫補助金」の補助対象事業の基準を満たして。

- ・1日当たりの計画運行回数が3回以上のもの → **運行回数10.0回**
- ・輸送量が15人～150人/日と見込まれること (計画平均乗車密度 × 計画運行回数) → **輸送量32.0**
- ・経常赤字が見込まれること → 経常収益－経常費用 = **-40,335,207**

5. 生産性の向上(利用促進)の取組、結果①

令和7事業年度（R6.10.1～R7.9.30）に生産性向上のために取り組んだ事業と結果
 （令和6年6月21日付け地域公共交通計画認定申請書に係る「JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画（別紙）」に記載した内容）

取組	評価	結果
・鉄道とバスの接続時刻調整	○	（有）中京交通 鉄道ダイヤに合わせて、バスのダイヤ設定ができています。
・園部駅でのバス定期券等の売場確保	○	（有）中京交通 南丹市観光協会（最寄り：JR園部駅最寄り）にて売場を確保
・協議会ポータルサイト、市町ホームページ・広報誌・SNS等のPR媒体を活用した周知	○	（京都府・南丹市・京丹波町） 各市町ホームページ・広報誌において周知を継続
・バス時刻表の検索など、目的の情報サイトが検索の上位に表示されるような方法の検討・実施	○	（京都府・南丹市・京丹波町） Google検索やYahoo検索で「園福線 時刻表」と検索すると、一番上位に検索結果が表示されるため、利用者が求める情報にアクセスができています。
・バス時刻表の配布 （南丹市は全戸配布、京丹波町は役場及び町内主要施設で配架）	△	（南丹市・京丹波町） 南丹市：園福線沿線地域から配布。継続実施 京丹波町：役場及び町内主要施設で配架
・沿線の地区（小学校区単位）毎に、利用状況等の意見調査を実施	○	（京丹波町） 利用者代表として桧山地域振興会会長、梅田地域振興会会長にヒアリングを実施 ➡運行本数や運賃に対する満足度が高く、地域において不満の声も特段聞いておらず、沿線住民の生活向上に寄与していると回答があった。観光利用は少ないかと思われるが、今後は地域の観光資源との連携によるさらなる活用が期待される。

5. 生産性の向上(利用促進)の取組、結果②

令和7事業年度（R6.10.1～R7.9.30）に生産性向上のために取り組んだ事業と結果
 （令和6年6月21日付け地域公共交通計画認定申請書に係る「JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画（別紙）」に記載した内容）

取組	評価	結果
・高齢者運転免許証自主返納等支援事業で、「路線バス利用券」若しくは「ICOCAカード」1万円分（デポジット含む）を返納特典として交付	○	（京丹波町）申請数60件、「路線バス利用券」23件、「ICOCAカード」37件
・モビリティマネジメントの継続実施・範囲拡大（バスの乗り方教室の開催等）	○	（南丹市）小学6年生を対象にバス乗り方教室を実施し、公共交通の利用に他する理解を深めてもらった。 
・沿線の施設と連携した企画乗車券の発売に向けた調整	○	園福線PRチラシ案を作成し、企画乗車券発売に向けた機運醸成
・沿線の観光地情報やバスを利用したアクセス方法の発信	○	（京都府・南丹市・京丹波町）要確認 関係自治体や森の京都DMOと連携して、協議会HPの「公共交通マップ」から観光地情報等を閲覧できるよう更新して、利用促進を図った。


 運行開始から2年目を迎え、前年より利用者数は増加している。今後も利用者増加や利便性向上に向けた取組を進め、さらなる利用拡大を図る必要がある。

6. 今後の取組について

課題

1. 利用者増加に向けた取組み

2. 利便性向上に向けた取組み

3. データ活用による今後の改善の検討

対策 令和8事業年度（R7.10.1～R8.9.30）

- PRの充実（継続）
協議会HP、市町ホームページ・広報誌・SNS等のPR媒体を活用した周知
- バス時刻表の配布（継続）
南丹市は全戸配布、京丹波町は役場及び町内主要施設で配架
- 利用状況等に関する調査（継続）
沿線の地区（小学校区単位）毎に、利用状況等の意見調査を実施
- 高齢者運転免許証自主返納等支援事業の実施（継続）
「路線バス利用券」若しくは「ICOCAカード」1万円分（デポジット含む）を返納特典として交付
- バスの利用方法、利便性のPR（継続）
モビリティマネジメント（バスの乗り方教室の開催等）の実施を通じて、バスの便利さや移動手段としての重要性を地元住民に啓発する活動を実施
- 高校選択時期に沿線中学生を対象とした公共交通利用促進の働きかけの実施（新規）
- 沿線立地学校との連携による通学専用回数券の販売（新規）
- 利用が少ない時期における周辺地域周遊利用プラン等の実施（新規）
- 沿線店舗と連携した利用促進策の実施（新規）

- 鉄道とバス、バスとバスの接続時刻調整（継続）
- バス情報を検索しやすい工夫（継続）
バス時刻表の検索など、目的の情報サイトが検索の上位に表示されるような方法の検討・実施

- AIカメラのデータ分析（継続）
AIカメラの導入により、便ごと・バス停ごとの乗降人数が把握できるようになったため、利用状況に沿った最適な経路やダイヤの再編などの改善が図られるようデータを活用していく。

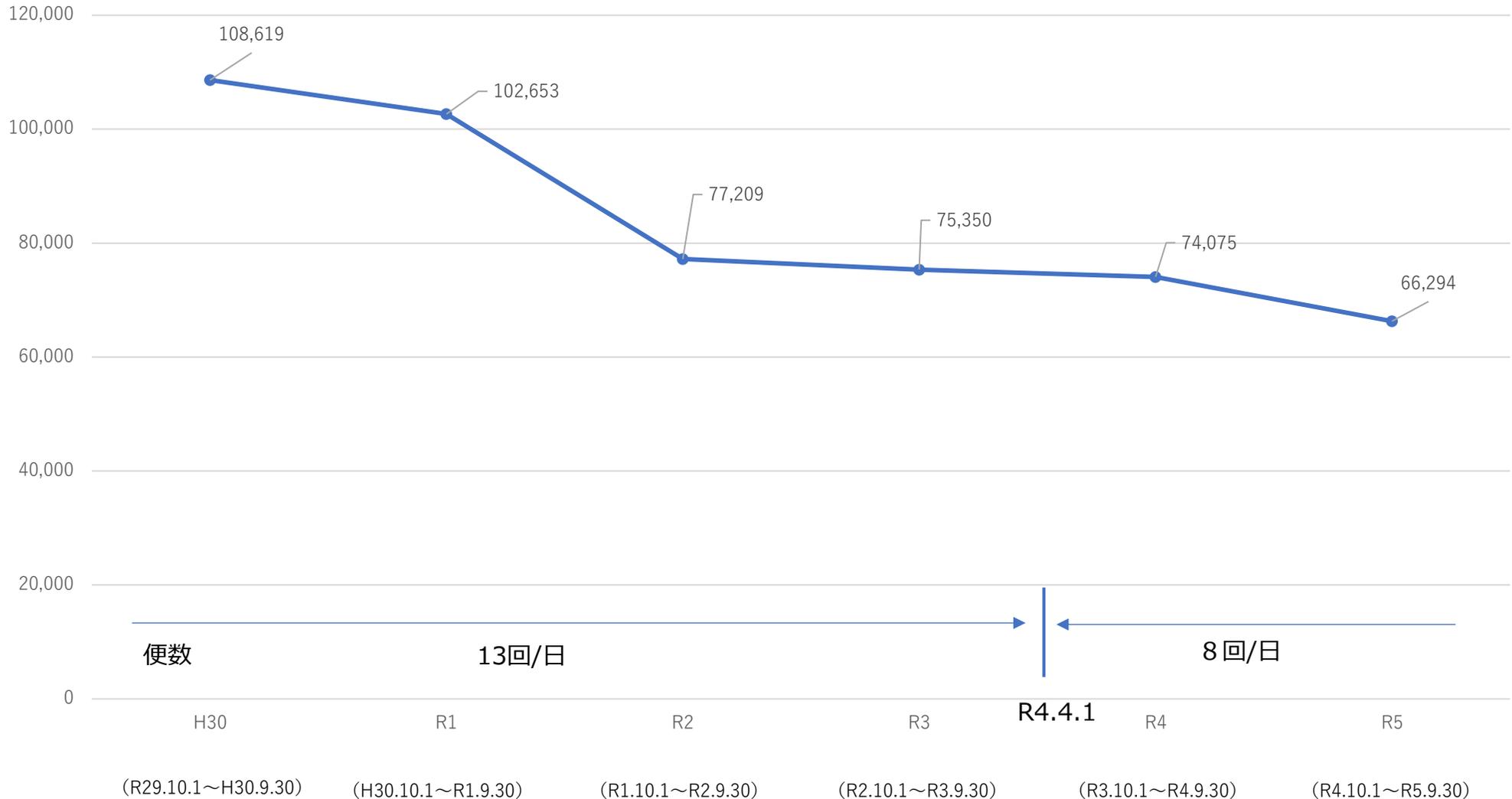
(参考) 西日本ジェイアールバスの利用状況

西日本ジェイアールバス 輸送人員推移

参考：中京交通
R7事業年度66.967人

園部駅～桧山（地域間幹線系統）

(単位：人)



(参考) 運行までの経過

年月	内容
R4.12	本協議会において、「地域旅客運送サービス継続事業」を地域公共交通計画に位置付けて、園福線の運行を継続していくことで合意
R5.3	・「地域旅客運送サービス継続事業実施方針（案）」及び「公募要領（案）」の承認 ・公募の実施（3/23～4/21）
R5.5	運行予定事業者の選定
R5.11	・本協議会で「地域旅客運送サービス継続実施計画最終案」の承認 ・府・沿線市町で「地域旅客運送サービス継続実施計画」を作成
R5.12	府・沿線市町から、「地域旅客運送サービス継続実施計画」を国土交通大臣へ申請
R6.3	近畿運輸局長が「地域旅客運送サービス継続実施計画」を認定
R6.4	(有)中京交通及び京都交通(株)による運行を開始

議題第 1 号

令和 7 事業年度地域公共交通確保維持事業の事業評価について

有限会社中京交通が運行している園福線の令和 7 事業年度 (R6. 10. 1～R7. 9. 30) の地域公共交通確保維持改善事業について、当該自己評価の結果報告として、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目に定められている様式 (別添 1、別添 1 - 2) 及び近畿様式を近畿運輸局長へ提出してよろしいか。

提出資料一覧

- ・ 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目に定められている様式

別添 1 (地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業))

別添 1 - 2 (事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について)

- ・ 近畿様式

(案)

資料 1 - 1

8 山地協第 号
令和 8 年 月 日

近畿運輸局長 様

氏名又は名称 JR 山陰本線（園部～綾部）
沿線地域公共交通活性化協議会

住 所 京都府京都市上京区下立売通
新町西入藪ノ内町

代表者氏名 会長 加藤博和

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について（報告）

別添のとおり地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行いましたので、報告します。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月

協議会名: JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会 (運行事業者: (有)中京交通)	■地域間幹線系統 ・園福線の運行 毎日運行 ・運行経路 園福線 (園部駅東口～松山)	<p>【前回の事業評価結果】 西日本ジェイアールバスが運行していた路線を引き継ぎ、令和6年4月から中京交通が運行を開始した。路線のPR、交通系ICカードの導入、駅・バス停での乗換案内のサインを設置するなど、円滑な運行移行ができた。</p> <p>【事業評価結果の反映状況(案)】 前回評価で示された路線PRや利便性向上策を継続し、以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鉄道とバスの接続時刻調整: ・鉄道ダイヤに合わせてバスダイヤを設定。 ●広報・PR活動: ・協議会ポータルサイトや市町HP等で情報発信を継続。 ●検索利便性向上: ・GoogleやYahoo検索で路線情報が検索可能 ●バス時刻表の配布: ・市役所や公共施設で継続配布。 ●利用促進イベント: ・小学生対象のバス乗り方教室を実施。 ●観光連携: PRチラシ案作成や観光マップ掲載で利用促進を図った。 ●高齢者運転免許証自主返納等支援: 「路線バス利用券」若しくは「ICOCAカード」1万円分(デポジット含む)を返納特典として交付。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線収支率 目標 44.60%(R8) 実績 23.61%(R6半期) 実績 31.49%(R7) ・利用者数 目標 82,276人(R8) 実績 33,026人(R6半期) 実績 66,967人(R7) ・利用者あたりの公的資金投入額 目標 347.3円(R8) 実績 - (R6半期) 実績 602.3円(R7) 	沿線地域では、人口減少と高齢化が進んでおり、これからも地域の公共交通を守り、子どもからお年寄りまで全ての住民が安全安心で豊かに生活でき、子育てしやすい、地域間の交流がしやすい、観光客が来訪したい、移住者が移り住み続けたいまちづくりを支援する公共交通の実現するために、運行事業者及び沿線自治体と連携して利用促進に取り組むとともに、国・府の新たな補助制度を活用し、行政負担の軽減を図りつつ、路線の維持、利便性向上・利用拡大の取組を進めていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月

協議会名:	JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域は、自動車利用を前提としたライフスタイルが定着し、自動車を利用できない住民にとっては、暮らしにくい状況となっているとともに、公共交通のサービスレベルが十分ではない地域や時間帯があり、通勤・通学・通院等の外出先を自由に選択できない点や、後期高齢者の増加に比例して高齢ドライバーも増加することから地域の暮らしの安全確保が問題となっている。また、移動手段や暮らしの安全の確保だけでなく、まちづくりや子育て施策等と連携した取組が必要である。</p> <p>そのため、JR 山陰本線の複線化を視野に、鉄道を中心とする沿線全体の公共交通サービスの改善を検討する。将来のまちづくりを実現する地域公共交通サービスの充実等により、子どもからお年寄りまで全ての住民が安全安心で豊かに生活でき、子育てしやすい、地域間の交流がしやすい、観光客が来訪したい、移住者が移り住み続けたいまちづくりを支援する公共交通の実現を目指す。</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域公共交通の重要性に関する認識をあらゆる主体・地域で共有し、協働して支え育む活動を活発化することで、地域公共交通システムを持続可能とする。 2. JR山陰本線(園部～綾部)の複線化を視野に、まずコロナ禍等での減便からの回復を目指し、沿線全体の公共交通サービスを改善することで利用者数を増やす。 3. 高校生・高齢者を主なターゲットに、自家用車に頼らなくても通勤・通学・買い物・通院でき、「健幸」に暮らせる地域を目指す。 4. 鉄道駅・主要バス停の乗継利便性や待合快適性を高め、安心感があり立ち寄りたくなる拠点へと変え、地域内外の交流を促進する。 5. 案内強化やMaaS等によって公共交通を分かりやすくし、一体化を進めることで使いやすさを向上させ、特に観光での移動を便利で快適にする。 6. まちづくりと連携した公共交通サービス改善によって「おでかけ」したくなる地域とすることで、コロナ禍を乗り越え、人口減少特に若年層の流出を食い止める。 <p>【将来像】 安全安心で豊かな暮らしの基盤となり、交流と定住を促進する「森の京都『おでかけ』システム」の実現</p> <p>【計画区域】 綾部市、南丹市、京丹波町の2市1町からなる地域とし、JR 山陰本線の園部駅～綾部駅間に関連する区域</p> <p>【計画期間】 おおよそ10年後(令和13年度)の将来を見据えつつ、令和4年度から8年度までの5年間の計画とする。</p>

JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会 （ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域は、自動車利用を前提としたライフスタイルが定着し、自動車を利用できない住民にとっては、暮らしにくい状況となっているとともに、公共交通のサービスレベルが十分ではない地域や時間帯があり、通勤・通学・通院等の外出先を自由に選択できない点や、後期高齢者の増加に比例して高齢ドライバーも増加することから地域の暮らしの安全確保が問題となっている。また、移動手段や暮らしの安全の確保だけでなく、まちづくりや子育て施策等と連携した取組が必要である。

そのため、JR 山陰本線の複線化を視野に、鉄道を中心とする沿線全体の公共交通サービスの改善を検討する。将来のまちづくりを実現する地域公共交通サービスの充実等により、子どもからお年寄りまで全ての住民が安全安心で豊かに生活でき、子育てしやすい、地域間の交流がしやすい、観光客が来訪したい、移住者が移り住み続けたいまちづくりを支援する公共交通の実現を目指す。

●基本方針

1. 地域公共交通の重要性に関する認識をあらゆる主体・地域で共有し、協働して支え育む活動を活発化することで、地域公共交通システムを持続可能とする。
2. JR 山陰本線（園部～綾部）の複線化を視野に、まずコロナ禍等での減便からの回復を目指し、沿線全体の公共交通サービスを改善することで利用者数を増やす。
3. 高校生・高齢者を主なターゲットに、自家用車に頼らなくても通勤・通学・買い物・通院でき、「健幸」に暮らせる地域を目指す。
4. 鉄道駅・主要バス停の乗継利便性や待合快適性を高め、安心感があり立ち寄りたくなる拠点へと変え、地域内外の交流を促進する。
5. 案内強化や MaaS 等によって公共交通を分かりやすくし、一体化を進めることで使いやすさを向上させ、特に観光での移動を便利で快適にする。
6. まちづくりと連携した公共交通サービス改善によって「おでかけ」したくなる地域とすることで、コロナ禍を乗り越え、人口減少特に若年層の流出を食い止める。

●将来像 安全安心で豊かな暮らしの基盤となり、交流と定住を促進する
「森の京都『おでかけ』システム」の実現

●計画区域 綾部市、南丹市、京丹波町からなる地域とし、JR 山陰本線の園部駅～綾部駅間に関連する区域

●計画期間 おおよそ 10 年後（令和 13 年度）の将来を見据えつつ、令和 4 年度から 8 年度までの 5 年間の計画とする。

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添資料 1 参照

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

目標の実現、施策の継続的な実施に向けて、2市1町の関係者及び区域の公共交通事業者、住民など、様々な関係者が連携し、総合的な取組として進める。

<協議会の役割>

計画の評価、進捗管理は協議会が主体となって実行する

<各市町の役割>

各市町の地域公共交通会議等で事業の実施状況や評価等を協議し、協議事項等を本協議会へ共有する。

●計画の達成状況の評価する指標（基準値（令和元年度）⇒目標値（令和8年度））

※別添資料2 参照

（参考：園福線地域旅客運送サービス継続実施計画に係る数値目標は以下のとおり）

（バス路線収支率）

- ・園福線（園部～桧山）44.60%（R8年）、園福線（桧山～下ノ段）16.20%（R8年）
（利用者数）
- ・園福線（園部～桧山）82,276人（R8年）、園福線（桧山～下ノ段）21,939人（R8年）
（利用者あたりの公的資金投入額）
- ・園福線（園部～桧山）347.3円（R8年）、園福線（桧山～下ノ段）903.4円（R8年）

※計画本体、9.1数値目標の設定（P65～72）及び10.計画実施のための体制（P73）参照。測定手法については、毎年、交通事業者から利用者数、経常収益のデータを集計し、算出。

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

●これまでの取組（実施中含む）

【計画策定】

- ・ JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通網形成計画（平成 29 年 3 月）
- ・ JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画（令和 4 年 3 月）
- ・ JR 山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画（令和 5 年 11 月）
- ・ 園福線地域旅客運送サービス継続実施計画認定（令和 6 年 3 月）

【JR 山陰本線】

- ・ 胡麻駅の改修工事を実施（令和 5 年度：南丹市）
- ・ 山家駅入口の段差解消工事を実施（令和 5 年度：綾部市）
- ・ 「丹波モビリティフリーパス」の実施（令和 5 年 12 月～令和 6 年 1 月）

【園福線】

- ・ 西日本ジェイアールバス(株)が地域間幹線系統として運行（令和 6 年 3 月末）
- ・ 「丹波モビリティフリーパス」の実施（令和 5 年 12 月～令和 6 年 1 月）

【地域内交通（綾部市）】

①あやバス

- ・ 自家用車を持っていない高齢者や免許返納等により運転できない高齢者が、安心して買い物や通院等ができるように、平成 17 年 4 月から運行開始

【地域内交通（南丹市）】

①ぐるりんバス

- ・ 地域住民や来訪者を、主要鉄道駅である JR 園部駅や生活関連施設・住宅地への移動手段を確保するため、平成 17 年 4 月から運行開始

②南丹市営バス

- ・ 平成 18 年 1 月から運行開始

【地域内交通（京丹波町）】

①京丹波町町営バス

- ・ 自家用車を持っていない高齢者や免許返納等により運転できない高齢者が、安心して買い物や通院等ができるように、平成 18 年 5 月から運行開始

【その他】

- ・小中学生に対するモビリティマネジメントの実施
- ・中学3年生及び高校3年生及び保護者に対するモビリティマネジメントの実施
- ・免許証自主返納支援事業の継続実施
- ・新ダイヤ時刻表の全戸配布

●令和6事業年度の取組（令和5年10月1日～令和6年9月30日）

【園福線】

令和6年4月1日から西日本ジェイアールバス㈱に代わり、(有)中京交通が運行を開始。

概要

系統名	起点～終点	運行回数	車両
園福線[60]	園部駅東口～自然運動公園前～桧山	9	大型2台
園福線[65]	園部駅東口～自然運動公園～桧山	1	中型2台
園福線[70]	桧山～下大久保～菟原	3	中型1台
園福線[80]	桧山～下大久保・菟原～下ノ段	2	

※園福線[60] [65]は地域間幹線系統、園福線[70] [80]は地域内フィーダー系統

■運行路線

- ・路線の延伸（福知山駅～福知山市民病院間）や停留所の追加（ミニフレッシュ三和店前）

■運賃

- ・従前よりも運賃を値下げし、通学生などバス利用者の負担を軽減
- ・運賃体系を10円単位から50円単位へ変更し、全区間で運賃を値下げ

園部駅東口～福知山駅間(※)	2,170円→1,800円 (▲370円)
園部駅東口～桧山間	810円→600円 (▲210円)
桧山～菟原間	680円→500円 (▲180円)
菟原～福知山駅間	940円→700円 (▲240円)
福知山駅～市民病院間	(新設) 200円

(※) 桧山・菟原で乗り換えした場合の運賃

■運行本数

- ・園部駅東口～桧山間 上下各8本→上下各10本
(午前9時台～12時台で上下2本ずつ増)
- ・桧山～丹波大身間 上下各5本→上下各5本

●令和7事業年度（令和6年10月1日～令和7年9月30日）も上記取組を継続して実施

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域間幹線系統確保維持費国庫補助金	(有)中京交通	R6. 4. 1～	幹	起終点の園部駅東口及び桧山では、鉄道や地域内交通と接続するなど、地域間幹線系統として、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担っている
地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金	(有)中京交通	R6. 4. 1～	フ	起終点の桧山～下ノ段では、地域拠点である桧山から周辺部の居住地や福知山高校三和分校等を結ぶ路線であり、地域の移動手段として役割を担っている。 また、桧山では地域間幹線系統への接続により、広域への移動も可能とするなど、地域内フィーダー系統として、幹線を補完している。

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
車両減価償却費等国庫補助金	(有)中京交通	R6. 2～	地域間幹線系統及び地域内フィーダー系統を運行する車両を5台購入。
バスカードシステム及びバスロケーション整備事業 (交通系ICカードシステムの拡充)	(有)中京交通	R5. 11. 8～ R6. 2. 20	園福線の運行を開始するにあたり、ICカード・バスロケーションシステムの導入費用を関係自治体が支援。合わせて、南丹市コミュニティバス（ぐるりんバス）にもICカードシステムを導入。

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
園部駅におけるバス定期券販売体制の整備	園部駅でのバス定期券等の売場確保	<ul style="list-style-type: none"> ・バス路線収支率 目標 44.60% (R8) ・利用者数 目標 82,276 人 (R8) ・利用者あたりの 公的資金投入額 目標 347.3 円 (R8)
地域公共交通に関する情報発信	協議会ポータルサイト、市町ホームページ・広報誌・SNS等のPR媒体を活用した周知を実施	
地域公共交通に関する情報発信強化	バス時刻表の検索など、目的の情報サイトが検索の上位に表示されるような方法の検討・実施	
地域公共交通時刻表の配布事業	園福線沿線地域から配布（南丹市） 役場及び町内主要施設で配架（京丹波町）	
沿線地域における公共交通利用状況調査	京丹波町において、小学校区単位の利用状況を聞き取り	
高齢者運転免許証自主返納支援	「路線バス利用券」若しくは「ICOCAカード」1万円分（デポジット含む）を返納特典として交付	
モビリティマネジメント推進事業	小学6年生を対象にバス乗り方教室を実施し、公共交通の利用に他する理解を深めてもらった。（南丹市）	
沿線施設連携による企画乗車券発売に向けた調整	園福線 PR チラシ案を作成し、企画乗車券発売に向けた機運醸成を実施	
沿線観光情報発信	関係自治体や森の京都 DMO と連携して、協議会 HP の「公共交通マップ」から観光地情報等を閲覧できるよう更新して、利用促進を図った。	

個別取組の効果を定量的に示すことは困難であるが、全体として利用者数の増加と収支率の改善が確認されており、事業全体の生産性向上に資する結果となった。現時点で定量的効果の把握が困難な取組については、次年度に検証可能な指標を設定し、効果検証を実施する体制を整えるとともに、利用促進に寄与することを期待する。

- ・利用者数：令和6年度半期：33,026人、令和7年度：66,967人
- ・収支率：令和6年度半期：23.61%、令和7年度：31.49%

4. 具体的取組に対する評価

【園福線の運行（地域間幹線系統及び地域内フィーダー系統）】

西日本ジェイアールバス(株)撤退後の園福線について、令和6年4月1日から(有)中京交通により、円滑な代替運行が行われ、計画どおり、運賃の値下げ、運行便数の増便、ICカード機器やバスロケーションシステムの導入などが行われ、事業が適切に実施された。

●乗車実績（令和6年4月1日～令和6年9月30日 毎日運行）

- ・地域間幹線系統にあたる園部駅東口～桧山間は33,026人
- ・地域内フィーダー系統にあたる桧山～下ノ段間は4,359人

※(有)中京交通が運行する園部駅東口～下ノ段間の利用者総数について、37,385人

（参考：西日本ジェイアールバス(株)との比較）

園部駅東口～桧山間（R5事業年度及びR6事業年度の半期比較）

R5 西日本ジェイアールバス(株) 33,147人/半期

(有)中京交通 33,026人/半期

●乗車実績（令和6年10月1日～令和7年9月30日 毎日運行）

- ・地域間幹線系統にあたる園部駅東口～桧山間は66,967人
- ・地域内フィーダー系統にあたる桧山～下ノ段間は9,133人

●通学・通勤定期購入

・(有)中京交通の通勤・通学定期の購入状況から、引き続き、園福線の利用状況を確認できる。

●ICOCA利用

- ・西日本ジェイアールバスから利用の増加が見られる。

●通学利用（桧山～下ノ段間）

・引き続き、瑞穂小学校・瑞穂中学校、福知山高校三和分校までの移動手段として利用されている。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課題	課題への対応方針
<p>運行開始から利用促進に係る取組を実施してきたが、更なる利用者増加に向けて引き続き、利用促進を取り組んでいく必要がある。</p>	<p>更なる利用者増加に向け、既存の PR 活動や時刻表配布、利用状況調査、高齢者支援事業を継続し、公共交通の利便性を広く周知する。</p> <p>加えて、モビリティマネジメントを通じた啓発を強化し、沿線中学生や学校との連携による利用促進策を新たに実施する。観光や地域周遊プラン、沿線店舗との協働による企画を展開し、利用機会の創出を図る。</p> <p>これらの取組により、地域住民の公共交通利用を定着させ、持続可能な運行体制を確保する。</p>
<p>運行開始から利便性向上に向けた取組を実施してきたが、更なる利便性向上に向けて引き続き、利便性向上に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>鉄道とバス、バス同士の接続時刻を調整し、乗り継ぎの利便性を確保する。</p> <p>加えて、バス情報の検索性を高めるため、時刻表や関連情報が検索結果の上位に表示されるような工夫を継続的に実施する。</p> <p>これらの取組により、利用者が快適に移動できる環境を整備し、公共交通の利便性向上を図る。</p>
<p>データ活用による今後の改善の検討をする。</p>	<p>AI カメラで収集した乗降データを継続的に分析し、便ごと・バス停ごとの利用状況を把握する。その結果を踏まえ、最適な経路やダイヤの再編など、運行計画の改善に活用する。</p> <p>データに基づく効率的な運行を実現し、利用者の利便性向上と持続可能な公共交通の確保を図る。</p>

JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通活性化協議会 （これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>令和6年4月1日、西日本ジェイアールバスの撤退に伴い、中京交通に円滑に運行が引き継がれている。これまで実施した利用促進事業の効果検証などを実施しながら、引き続き利用促進に努められたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●西日本ジェイアールバス撤退後、令和6年4月より中京交通が円滑に代替運行を開始 ●運賃値下げ、増便、ICカード・バスロケーションシステム導入など、利便性向上策を計画どおり実施 ●効果検証として、月ごとの乗車人員（幹線・フィーダー）、を集計し、利用状況を把握。 ●時刻表配布、PR チラシ作成等、周知活動の実施 ●モビリティマネジメントを通じた啓発（小学生対象）を実施し、公共交通利用の定着を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報・周知活動の継続 ●AI カメラで収集した乗降データを分析し、閑散便の時刻・経路見直しや乗継待ち時間短縮につなげる。 ●観光・地域周遊プランや沿線店舗との協働による企画乗車券の発売を検討し、利用機会を創出。

2. アピールポイント、特に工夫した点など

<ul style="list-style-type: none"> ●代替運行の円滑な引継 <ul style="list-style-type: none"> →西日本ジェイアールバス撤退後、円滑に中京交通へ移行し、運賃値下げ・増便・ICカード導入を同時に実現。 ●利便性向上策のパッケージ化 <ul style="list-style-type: none"> →運賃改定、増便、ICカード・バスロケ導入を一体的に実施し、利用者負担軽減と利便性向上を両立。 ●モビリティマネジメントの継続実施 <ul style="list-style-type: none"> →小学生対象の啓発を継続し、将来の利用定着を図る。 ●情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> →時刻表配布＋広報誌＋協議会 HP で多層的な周知を実施 ●データ利活用 <ul style="list-style-type: none"> →AI カメラによる乗降データ分析し、次期ダイヤ改善に活用予定

7.4 地域公共交通の位置づけと役割

目指すべき地域公共交通の将来像の実現に向けて、本計画で対象とする公共交通とその役割を次のように定める。

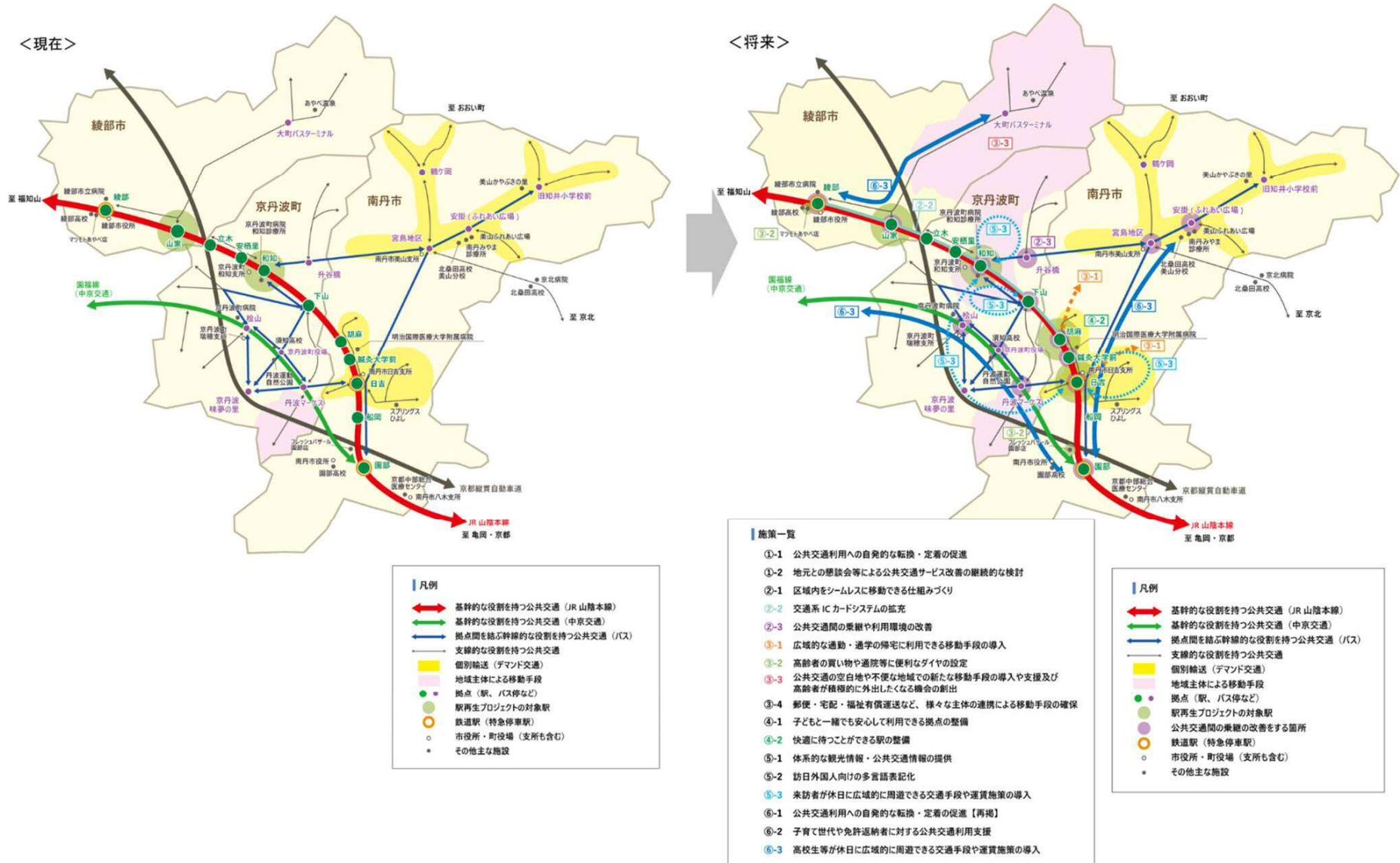


図 3 市町の公共交通体系の骨格イメージ (現在・将来)

地域公共交通計画の令和6年度事業評価について

基本方針①		地域公共交通の重要性に関する認識をあらゆる主体・地域で共有し、協働して支え育む活動を活性化することで、地域公共交通システムを持続可能とする							
評価指標		基準値 (R1年)	現況値 (R6年)	目標値 (R8年)	達成状況				
JR山陰本線(園部～綾部)の年間利用者数(人)		453,840	406,626	373,034	○				
利用者あたりの 公的資金投入額 (円/人)	あやバス	613.9	1,000.6	778.7	×				
	南丹市営バス	1,302.2	1,907.9	1,659.8	×				
	ぐるりんバス	1,230.2	1,958.6	1,521.1	×				
	京丹波町営バス	829.7	1,427.7	1,047.9	×				
	中京交通 園福線(園部駅東口～桧山)※	-	781.6	347.3	×				
	中京交通 園福線(桧山～下ノ段)※	-	2,463.4	903.4	×				
評価指標	バス路線の収支率(%)			(参考)年間利用者数(人)			達成状況 (収支率)		
	基準値 (R1年)	現況値 (R6年)	目標値 (R8年)	基準値 (R1年)	現況値 (R6年)	目標値 (R8年)			
あやバス	上林線	26.01%	16.22%	21.57%	71,659	59,394	59,424	×	
	於見市野瀬線	10.54%	7.19%	8.74%	6,790	6,244	5,631	×	
南丹市営バス	知井線	4.44%	4.18%	3.66%	2,446	3,182	2,014	○	
	佐々里・芦生線	0.43%	0.34%	0.36%	315	224	259	×	
	大野線	4.62%	6.81%	3.80%	6,602	5,923	5,435	○	
	鶴ヶ岡線	2.68%	2.13%	2.20%	3,473	1,032	2,859	×	
	知見線(河内谷線込)	42.74%	34.06%	35.19%	46	23	38	×	
	福居線	0.88%	1.16%	0.73%	129	352	106	○	
	京北線	18.51%	14.76%	15.24%	13,431	15,897	11,058	×	
	世木線	4.04%	6.48%	3.33%	5,576	4,029	4,591	○	
	胡麻・志和賀線	6.40%	8.38%	5.27%	9,403	6,471	7,741	○	
	五ヶ荘・美山園部線	37.63%	30.00%	30.98%	65,654	62,117	54,053	×	
	ぐるりんバス	摩気・園部東部線	9.23%	6.45%	7.60%	9,953	6,383	8,194	×
京丹波町営バス	丹波和知線	14.04%	6.01%	11.25%	34,031	19,965	27,276	×	
	丹波桧山線	11.49%	2.69%	9.21%	16,304	10,618	13,068	×	
	高原下山線	6.15%	4.52%	4.93%	18,187	16,705	14,577	×	
	竹野線	5.81%	1.20%	4.65%	2,989	1,672	2,396	×	
	質美線	5.99%	4.34%	4.80%	14,172	12,585	11,359	×	
	小野鎌谷線	1.56%	0.65%	1.25%	16,216	7,551	12,997	×	
	猪鼻戸津川線	1.85%	0.57%	1.48%	13,991	5,267	11,214	×	
	仏主線	4.54%	1.25%	3.64%	7,574	4,259	6,071	×	
	上乙見線	3.43%	1.28%	2.75%	4,237	4,711	3,396	×	
	長瀬線	9.80%	4.69%	7.85%	6,074	4,377	4,868	×	
	才原大簾線	3.21%	0.51%	2.58%	11,649	4,320	9,337	×	
	桧山和知線	1.16%	1.00%	0.93%	453	409	363	○	
	道の駅和知線	0.44%	2.10%	0.36%	74	301	59	○	
	丹波日吉線	-	3.87%	1.45%	-	4,381	930	○	
中京交通 ※	園福線(園部駅東口～桧山)	-	23.61%	44.60%	-	33,026	82,276	×	
	園福線(桧山～下ノ段)	-	10.21%	16.20%	-	4,359	21,939	×	

基本方針②		JR山陰本線（園部～綾部）の複線化を視野に、まずコロナ禍等での減便からの回復を目指し、沿線全体の公共交通サービスを改善することで利用者を増やす			
評価指標		基準値 (R1年)	現況値 (R6年)	目標値 (R8年)	達成状況
人口あたりの年間公共交通利用者数		40.83	33.04	36.50	×
鉄道・主要バス路線との接続便数 (一定時間内に乗り継げる割合) (%)	平日	-	44%	54%	×
	土曜	-	43%	53%	×
	休日	-	60%	66%	×

基本方針③		高校生・高齢者を主なターゲットに、自家用車に頼らなくても通期・通学・買い物・通院でき、「健幸」に暮らせる地域を目指す			
評価指標		基準値 (R1年)	現況値 (R6年)	目標値 (R8年)	達成状況
人口あたりの年間鉄道定期利用者数		29.74	30.54	27.19	○
人口あたりの年間バス利用者数		21.54	14.64	19.13	×
高齢者の外出回数（平日の外出率） (%)		-	-	47%	-

基本方針④		鉄道駅・主要バス停の乗継利便性や待合快適性を高め、安心感があり立ち寄りたくなる拠点へと変え、地域内外の交流を促進する			
評価指標		基準値 (R1年)	現況値 (R6年)	目標値 (R8年)	達成状況
4つの機能（照明・ネット環境・電源・テーブル）が整備された鉄道駅・主要バス停の数		-	1	4	×

基本方針⑤		案内強化やMaas等によって公共交通を分かりやすくし、一体化を進めることで使いやすさを向上させ、特に観光での移動を便利で快適にする			
評価指標		基準値 (R1年)	現況値 (R6年)	目標値 (R8年)	達成状況
年間観光入込客数（千人）		-	7,306	5,034	○
休日のバス利用者数（人/日）		390.3	340.7	319.9	○

基本方針⑥		まちづくりと連携した公共交通サービス改善によって「おでかけ」したくなる地域とすることで、コロナ禍を乗り越え、人口減少特に若年層の流出を食い止める			
評価指標		基準値 (R1年)	現況値 (R6年)	目標値 (R8年)	達成状況
(再掲) 人口あたりの年間公共交通利用者数		40.83	33.04	36.50	×
若年層の人口割合 (%)		-	22.1%	21.7%	○

※中京交通のデータについては、令和6年4月から令和6年9月30日までの数値を使用

評価結果の分析について

<p>1. 基本方針①【JR山陰本線(園部～綾部)の年間利用者数】</p> <p>JR山陰本線（園部～綾部）の年間利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少したものの、目標値を上回るペースで回復している。令和元年度比で89.6%となっている。JR西日本が公表している令和6年度の平均乗車密度は5,061人であり、令和2年度以降、増加傾向にある。</p>
<p>2. 基本方針①【利用者あたりの公的資金投入額・バス路線の収支率】</p> <p>バス路線については、29路線のうち12路線で年間利用者数が目標値を上回っているが、人件費及び運行経費の高騰により、収支率の目標値は達成していない。京丹波町では、令和元年度と比較して年間の全路線を合計した人件費が約2,500万円、燃料費が約400万円増加している。</p>
<p>3. 基本方針④【4つの機能(照明・ネット環境・電源・テーブル)が整備された鉄道駅・主要バス停の数】</p> <p>「照明・ネット環境・電源・テーブル」の4つの機能を備えた鉄道駅・主要バス停の整備については、令和5年度に胡麻駅の改修工事を実施し、1駅が達成した。4つの機能のうち3つが整備されている駅は4駅存在する。目標値の達成に向けて、各市町の予算状況を踏まえながら整備を進める必要がある。</p>

地域公共交通計画の策定について（素案）

1. 計画の目的・趣旨

本計画は、令和4年3月に策定した「地域公共交通計画」を更新するもの。

なお、町村の上位計画である「総合計画」等のまちづくり関連計画との整合を図りながら、これらに定める将来像の実現に向け、地域公共交通に関するマスタープランとして策定する。

2. 地域公共交通計画策定事業について

(1) 事業内容

- ・協議会から事業者へ業務委託し、計画策定に必要な調査や内容のとりまとめを行う。
- ・主な委託内容
 - ①圏域の現状調査
 - ②問題点の抽出・課題の整理
 - ③施策目標の達成状況の評価
 - ④実態調査(住民アンケート・利用者アンケート)
 - ⑤地域公共交通計画のとりまとめ
 - ⑥協議会開催

(2) 計画の区域

- ・綾部市(山家地区、上林地区)
- ・南丹市(旧日吉町、旧美山町、旧園部町の旧川辺小学校区域)
- ・京丹波町(全域)

(3) 経費（見込）

10,000 千円

うち国庫補助 5,000 千円、協議会 5,000 千円(各自治体 1,250 千円負担)

(4) 計画の期間

令和9年度から令和13年度までの5年間

- ・現計画(JR山陰本線(園部～綾部)沿線地域公共交通計画)の期間終了から切れ目なく実行する計画期間とするため、令和8年度に計画を作成。

3. 策定スケジュール

	R8												R9		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事前共有															
交付申請															
交付決定															
委託業務契約															
計画策定															
協議会開催	①		②			③			④		⑤		⑥		⑦
前回協議会 (R3～4)					○		●			○		●		●	○

※●現地開催、○書面開催

〈協議会の内容〉

- ①事前共有
- ②計画策定の進め方（方針・スケジュール説明、承認、予算案、決算報告）
- ③計画策定について（内容説明）
- ④地域の現況報告、実施する調査内容及び今後のスケジュールについて説明
- ⑤中間案提示（現行計画の事業評価及び課題、実施した調査の結果報告、目標案提示）
- ⑥中間案に対するパブリックコメント結果の報告、最終案の提示
- ⑦最終案修正事項等の最終確認（書面協議）

《詳細スケジュール》

- ◆ 令和8年1月下旬
令和8年度地域公共交通調査事業（計画策定事業）国庫補助申請ヒアリング資料を国土交通省近畿運輸局に提出
- ◆ 令和8年2月
令和8年度地域公共交通調査事業（計画策定事業）国庫補助申請ヒアリング
- ◆ 令和8年3月上旬
補助予定額の内示
- ◆ 令和8年3月上旬～4月下旬
交付申請書の事前確認
- ◆ 令和8年5月中旬
交付申請
- ◆ 令和8年5月下旬
交付決定
- ◆ 令和8年6月～令和9年3月
（1）計画作成委託事業者の選定
（2）計画作成
【業務内容】
①圏域の現状調査
②問題点の抽出・課題の整理
③施策目標の達成状況の評価
④実態調査（住民アンケート・利用者アンケート）
⑤地域公共交通計画のとりまとめ
⑥協議会開催